

The Way of TEA

大西幸治

どうも大西です。

- ・ 現在、和歌山で茶道具商の実店舗経営をしています。
- ・ 茶道具商とは、美術商の仲間で、商品が茶道にまつわる道具（茶道具）を扱う美術商のことです。
- ・ 美術商の世界では、作品の目利きができないと仕事にならないので、この平成の世に丁稚奉公（修行時代）として4年間、住み込み・外出禁止という環境で過ごしました。
- ・ ちなみに茶道歴は表千家流で10年目になります。

もくじ

- ・ テーマ：茶道に触れる
- ・ 1、茶室へのいざない
- ・ 2、茶室は非日常の空間
- ・ 3、茶会を彩る茶道具
- ・ 4、茶会は己の世界観を表現する場
- ・ 5、現代によみがえる茶道のココロ

茶室へのいざない

- ・ まず茶室に入るには、露地と呼ばれる道があります。
- ・ 露地は聖なる空間である茶室へといざなう道です。
- ・ 道中には、蹲（つくばい）という水を張った石が置かれています。
- ・ 茶室の入り口はにじり口と言って、大人ひとりがギリギリ入れるくらい大きさです。
- ・ 茶室は聖なる空間であり、このにじり口は結界としての役割を果たしています。



茶室～非日常の空間～

- ・ 茶室は、武家社会の時代に、身分・地位は関係無く、亭主と客とが人と人として対等に相對峙する空間。
- ・ 茶室の大きさは、もともと広間だったが、侘び茶を創った村田珠光の時代に4畳半、利休の時代には2畳半の小間、宗旦の頃は1畳半。
- ・ 世界に類を見ない接客空間。
- ・ 簡素であり無駄を省く、質素であることを良しとする精神により、小さくなっていった。
- ・ この精神が侘び茶の精神



茶会を彩る茶道具

- ・ 茶会には色々な茶道具、20種類くらいの道具が使われる。
- ・ 掛け軸やお茶碗、茶杓（竹でできた耳かきみたいなもの）や釜などを使い、お茶を振る舞う。（もてなし）
- ・ お茶の道具は高価なものも多く、中でも茶杓は見かけによらず高い
- ・ 正式な茶会では、食事（懐石）や、お酒も出される。
- ・ この食材は季節に合わせたものを振舞います。



茶会は己の世界観を伝える場

- ・ 茶会では、亭主（主催者）が、こだわった茶道具の組み合わせで、テーマや季節に合わせて世界観を表現し、おもてなしをする
- ・ つまり、茶会＝おれの世界観どうよ？ってこと。
- ・ 自分のこだわり（世界観）を提示する。これに対し客がどう察するか？のやり取りが茶会の醍醐味。
- ・ 世界観を亭主と客が共有する楽しみ



現代によみがえる茶道のココロ

- ・ 全国各地に宿泊施設を展開する、星野リゾート
- ・ 旅館再生・高級旅館を東京や海外進出へと躍進を続けているところ
- ・ そんな星野社長曰く。。。
- ・ 西洋のホスピタリティは、主客が上下の関係なのに対し、
- ・ 日本は主客が対等。
- ・ →これは、茶道の亭主と客の関係からきている（地位や身分は関係無い）
- ・ cf：ほしのやにはテレビがない！
- ・ 星野リゾートの接客は、茶道のおもてなしからきている

まとめ

- ・ 亭主の「おもてなし」と、客の「察する姿勢」
- ・ →茶会での世界観の共有。
- ・ このふたつがあって初めて成り立つのが茶道。
- ・ →主客が対等
- ・ この空間に言葉はいらない。。。
- ・ →無駄を省く、侘び茶の精神
- ・ これが日本の心。美德。もはや芸術（と個人的に思ってる）
- ・ あなたもお茶の世界に足を踏み入れてみませんか？

ようこそ.. 『茶の世界』へ..